

坂井市

1 称念寺 (坂井市丸岡町長崎)

齊藤義龍の軍に明智城を滅ぼされた際、明智光秀は母・お牧の方の縁を頼り、妻・照子とともに称念寺の門前に身を寄せたという。



福井市

2 西光寺 (福井市左内町)

北庄城で自害した柴田勝家の菩提寺。勝家と妻・お市の方が眠る墓所がある。



3 明智神社 (福井市東大味)

明智光秀が朝倉家臣時代に居住したという東大味。後の信長の越前攻めの際、光秀は勝家に申し入れ、かつて住んだこの地を戦火から守ったとされ、地元では「あけつあま」と慕われ、今も明智神社に祀られている。細川忠興の妻・ガラシャとなる光秀の三女・玉は、この地で生まれたといわれている。



15 熊川宿 (若狭町熊川)

若狭と京都を結ぶ鯖街道の宿場町であり、織田・徳川軍の越前攻めのルート。細川ガラシャの養母、沼田商會の出身地。

福井県

明智光秀 & 戦国マップ

麒麟も来た!!

越前若狭へ

いざ、タイムトラベル!

4 朝倉街道 (福井市東大味)

一乗谷に物資などを移動するために築かれた道路。光秀が住んだ東大味から一乗谷に至る表通りには、現在も石畳の古道が残る。



福井市

5 一乗谷朝倉氏遺跡・一乗谷城址 (福井市城戸ノ内町)

朝倉氏が5代103年間、居城とした一乗谷城と城下町の跡。光秀は信長に仕える以前は朝倉義興に仕えていたという。

6 油坂峠 (大野市・岐阜県郡上市)

越前と美濃の国境にある峠。美濃国に生まれた明智光秀は、斎藤義龍に攻められ明智城を失う。その後、光秀は、妻・照子らと油坂峠を越え、越前へと逃れたという。

大野市



7 朝倉義景墓所 (大野市東町)

織田信長の一乗谷攻めに敗れた朝倉義興は、支族の朝倉景鏡を頼り、大野に逃れた。しかし、景鏡の反逆にあい、六坊賢松寺にて自害。



越前町

8 劔神社 (越前町織田)

織田信長のルーツと伝わる神社。織田氏の祖先が代々劔神社の神官を務め、尾張に移った際、故郷の名から「織田」を名乗ったとされる。



越前市

9 越前和紙の里 (越前市五箇地区)

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康ら歴代の権力者からの紙の流通を増進する印鑑が残る。「明智軍記」には、光秀が信長に仕える際に越前和紙を献上したという記載がある。

11 栃ノ木峠 (南越前町・滋賀県長浜市)

織田信長から越前八郎を与えられた柴田勝家は、北庄城下を整備するとともに、信長の安土城への最短ルートとして栃ノ木峠を整備した。

敦賀市



12 玄蕃尾城跡 (敦賀市刀根・滋賀県長浜市)

隆ヶ岳の戦いで、柴田勝家が本陣を置いた山城跡。

オレンジ色●は
明智光秀ゆかりの
スポットです



美浜町



14 国吉城址 (美浜町佐柿)

若狭武田氏の重臣・粟屋勝久が築いた山城跡。1570年、織田信長は朝倉攻めのため、国吉城に陣を構えた。

13 金ヶ崎城址・金崎宮 (敦賀市金ヶ崎町)

戦国の三英傑(織田信長・豊臣秀吉・徳川家康)が揃って敗走した「金ヶ崎の退き口」で知られる。退却戦では、明智光秀や吉秀らが戦を務めたこととされる。

*それぞれの施設を訪れる際は、休館日・営業時間などを事前にご確認ください。 *明智光秀の生涯については諸説あり、記載されている内容はいずれも断定するものではありません。



1 吉崎御坊 (あわら市吉崎)

浄土真宗中興の祖・蓮如が、応仁の乱の戦火を避け、北陸布教の拠点とした。山の上に建てた「吉崎道場」は、一向一揆衆と朝倉氏の戦いで破却された。江戸時代、西本願寺と東本願寺の別院が隣に建てられ、蓮如の命日に合わせて御影道中・法要が営まれている。



2 丸岡城 (坂井市丸岡町霞町)

現存12天守のひとつ。上層望楼を備える2層3階建てであり、野面積みの石垣など、初期の城郭建築様式を見せる。一向一揆に備え、柴田勝家の勝・勝豊が築城。現存する天守は、学術調査により寛永年間、初代丸岡藩主・本多成重の頃のものと考えられている。



1 称念寺 (坂井市丸岡町長崎)

齊藤義隆の軍に明智光秀を滅ぼされた際、明智光秀は母・お牧の方の縁を頼り、妻・照子とともに称念寺の門前に身を寄せたという。松尾芭蕉が伊勢を訪れた際に、「光秀が連歌会を開くために、照子 självの黒髪を売り資金を used した」という逸話を語る。歌が、「月さびよ、明智が妻の 暗せむ」の句碑が境内にある。



1 北庄城址 (柴田神社) (福井市中央)

越前八郡を治めた柴田勝家が築城。石瓦葺きの9層の天守閣を備えていたと知られるが、幾ヶ岳の戦い後、羽柴秀吉に攻められ落城。柴田勝家・お市の夫妻が非常の死を遂げた。勝家を祀る柴田神社辺りが、本丸跡とされる。



2 西光寺 (福井市左内町)

北庄城で自害した柴田勝家の菩提所。もとは、一乗谷城主・朝倉貞景が家臣に命じて創建した。朝倉滅亡後の1576年(天正4)、足羽山の麓に遷された。勝家と妻・お市の方が眠る墓所がある他、北庄城ものといわれ、瓦葺が残されている。



3 明智神社 (福井市東大味)

光秀が朝倉家臣時代に居住したという東大味。戦後の信長の越前攻めの際、光秀は勝家に申し入れ、かつて住んだこの地を戦火から守ったとされ、地元では「あけつおま」と呼われ、今も明智神社に祀られている。細川忠興の徳力ラシャとなる光秀の三女・玉は、ここで生まれたといわれている。

4 朝倉街道 (福井市東大味)

北陸道が通り、越前国の守護・斯波氏や守護代・甲斐氏が拠点とする府中(現越前市)を避けて、一乗谷に物資などを移動するために築かれた道路。光秀が住んだ東大味から一乗谷に至る表通りには、現在も石畳の古道が残る。



城御朱印



5 一乗谷朝倉氏遺跡 一乗谷城址 (福井市城戸ノ内町)

朝倉氏が5代103年間、居城とした一乗谷城と城下町の跡。「北ノ京」と呼ばれ栄華を極めた一乗谷には、約1万人が住んでいたといわれる。光秀は信長に仕える以前は朝倉義景に仕えおり、朝倉家に身を寄せていた足利義昭との接触が、信長に仕官するきっかけとなったといわれている。朝倉滅亡後、越前を与えられた柴田勝家は拠点を見福井駅周辺に移したため、一乗谷の城下町は廃れ埋もれていたが、1967年に始まる発掘調査で、田畑の下から城下町跡がそっくり出土した。

城御朱印

1 越前大野城 (大野市城町)

天守の城として人気を集める平山城。織田信長の家臣・金森近成が築城した。現在の天守は、戦後、再建されたものだが、天守台の野面積みの石垣は、築城当時のもの。舞臺の目状の城下町に立つ七間朝市は、400年以上の歴史を持つ。



7 朝倉義景墓所 (大野市泉町)

織田信長の一乗谷攻めに敗れた朝倉義景は、支族の朝倉景鏡を頼り、大野に逃れた。しかし、景鏡の反逆にあい、六坊賢松寺にて自害。辞世の句「七転八倒 四十中 無他無自 四大本空」は、戦国武将の辞世の中でも、格調高いといわれている。



8 劔神社 (越前町織田)

織田信長のルーツと伝わる神社。織田氏の祖先が代々劔神社の神官を務め、尾張に移った際、故郷の名から「織田」を名乗ったとされる。信長も「氏神」として劔神社を厚く崇敬していた(柴田勝家書状に「当社の儀は殿様御氏神」と書かれている)。



9 越前和紙の里 (越前市五箇地区)

1500年の歴史を持つ、越前和紙の里。古くから良質な紙を造る産地であり、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康ら歴代の権力者からの紙の流通を安堵する印鑑が残る。「明智筆紙」には、光秀が信長に仕える際に越前和紙を献上したという記載がある。日本唯一の紙の神様「川上御前」を祀る岡太神社大蔵神社の「日本一複雑な屋根」は必見。

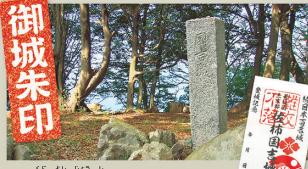
12 安番尾城跡 (敦賀市刀根・滋賀県長浜市)

幾ヶ岳の戦いで、柴田勝家が本陣を置いた山城跡。合戦で勝家は、戦わずして撤退し、その後手つかずだったため、山城の構造が、当時のまま良好に残っている。言い伝えによるこの城の名前は、勝家が置いた武將・佐久間玄蕃左衛門尉に因んで付けられたと言われている。



13 金ヶ崎城址・金崎宮 (敦賀市金ヶ崎町)

戦国の三英傑(織田信長・豊臣秀吉・徳川家康)が揃って敗走した「金ヶ崎の退き口」で知られる。お市の方が、両端をくくった小豆袋を兄・信長に送り、浅井長政の裏切りを知らされたとも言われ、退却戦では、明智光秀や秀吉らが戦を務めたといわれる。城址に建つ金崎宮では、小豆袋型の膳間突破のお守りを授けられている。



14 国吉城址 (美浜町佐柿)

若狭武田氏の重臣・栗屋勝久が築いた山城跡。朝倉氏の侵攻を10年近く撃退し続けた。1570年、織田信長は朝倉攻めのため、国吉城に陣を構えている。現在は、本丸や堀切、石垣、居館などの遺構が発掘されており、跡の若狭国吉城歴史資料館では、国吉城と城下町・佐柿を紹介している。



15 熊川宿 (若狭町熊川)

若狭と京都を結ぶ鯖街道の宿場町であり、織田・徳川軍の越前攻めのルート、細川ガラシャの義母、沼田静翁の出身地(お市の方は明智光秀の盟友・細川幽斎、子の細川忠興は光秀の三女・たまは細川ガラシャと結婚)。

